

研修ガイドDVD

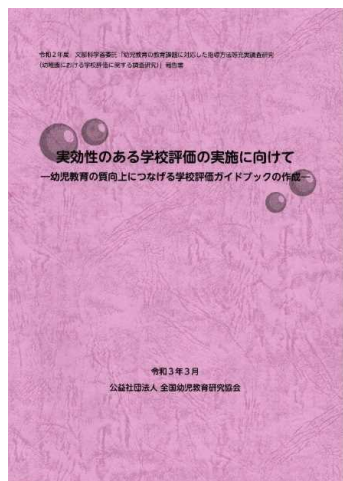
実効性のある学校評価の 実施に向けて

(公社)全国幼児教育研究協会顧問
中野区立かみさぎ幼稚園園長

岡上直子
若槻容子

本研修DVDの活用に向けて

- 本研修は、実効性のある学校評価の具体的な進め方や留意点などを園内研修で学ぶことができるように解説するものです。
- 実際に解説を聞きながらワークシートに記入したり、自分の考えを話し合いながら理解を深めるように作成しています。
- 本DVDで研修を進めるに当たっては、**研修テキスト**や令和2年度文部科学省委託研究で作成したガイドブック(下図)をダウンロード・印刷することをお勧めします。
- 研修の中で令和元年度から3年度までの学校評価を振り返る場面があるので、その記録を手元に準備すると学びが深まります。



→ガイドブック

- 自己評価の実施方法を中心に、実効性のある評価とするための具体的な方法を解説しています。
- 実施過程で予想される疑問に答えるQ&Aと、実施上で最も困難を感じている評価指標の具体例を紹介し、各幼稚園の実情に応じて工夫しやすいようにしています。



←研究報告書

- 研究報告書には事例が掲載されています。



ガイドブック⇒

実効性のある学校評価の実施に向けて
研修ガイドDVD 1

学校評価を実施する過程は、
教職員と目標を共有し、取組や成果を確認する場。
この場を保育の質向上や園運営に生かそう。

研修 1 のねらい

- 実効性のある学校評価の意義の理解
- 「評価される」という意識や「よくやっている」という評価を求めることへのこだわりの解消
- 学校評価のPDCAによる目標や園運営の可視化と共通理解による教職員の意識改革

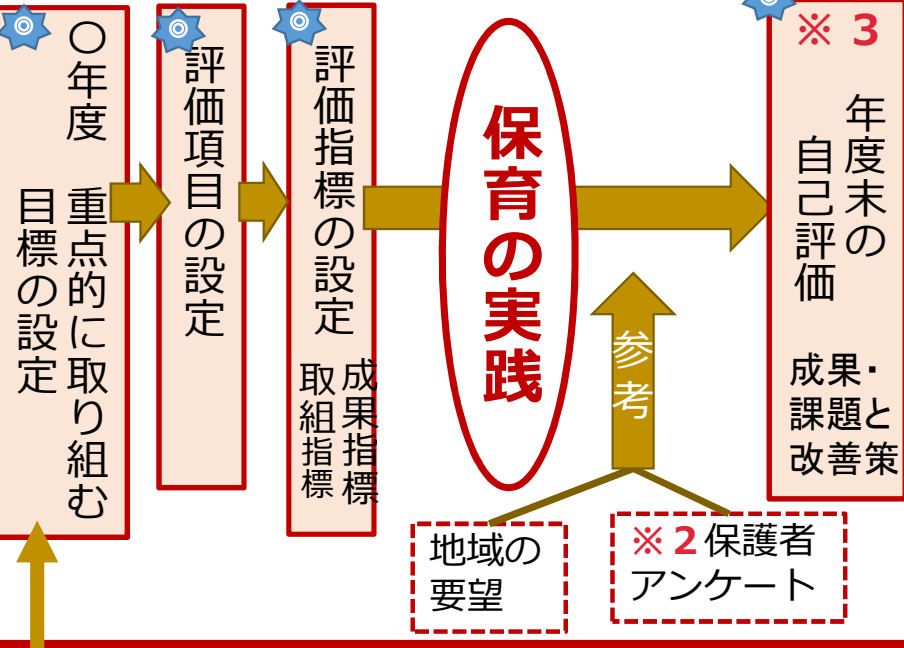
W園長が感じている 学校評価実施過程における困難感、成果と課題

- 学校評価に関する用語がよくわからないままの実施
Ex. 重点的に取り組む目標、評価項目、評価指標
- 数値化することの難しさ
Ex. 保育の質をどうやって数値にするの？
- 設置者が指定する評価と自園の課題とのすり合わせ
Ex. 小中学校と同じ評価項目・指標では評価できない
- 保育の振り返りを丁寧に行っているから、学校評価の必要性を感じないという園長もいるが、・・・ など

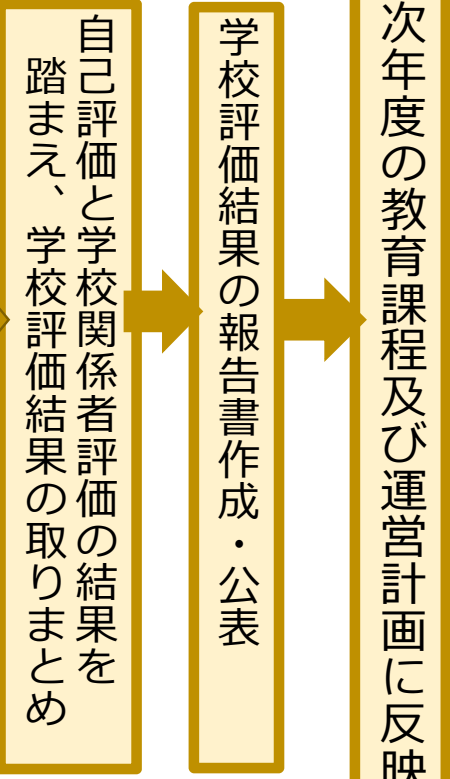
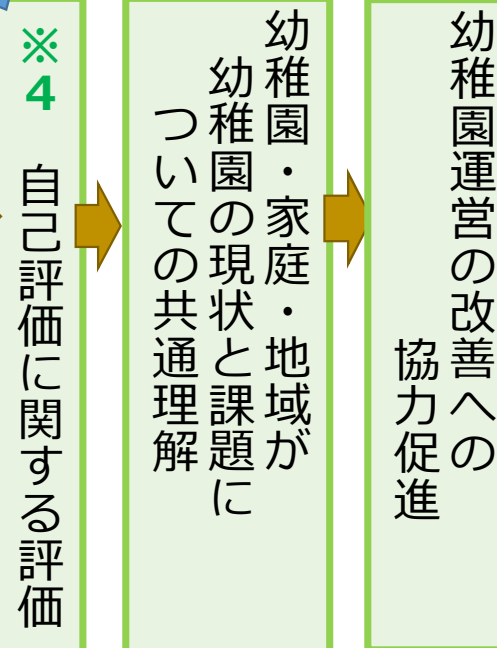
学校評価（自己評価・学校関係者評価）実施の流れ

自己評価

園長のリーダーシップの下、全教職員で行う



学校関係者評価



※1

学校関係者評価委員への情報提供

学校関係者評価の役割の説明、参観等を通して幼稚園の教育活動の紹介等

実施の時期

年度当初～

(※1) 6月頃から随時

(※2) 1月頃

(※3) 2月頃

(※4) 3月頃

6

書いてみよう 自園の学校評価の成果を振り返ってみよう

令和2年度の重点的に取り組む目標（◎）とその目標に関する評価の結果や改善したこと（➡）を下の枠に書いてみてください。**（3分くらい動画を止めて書き込みましょう。）**

◎

➡

◎

➡

◎

➡

幼稚園における学校評価実施上の課題

令和2年度の全国幼児教育研究協会の調査結果から捉えた各園の課題

- ① 重点的に取り組む目標(重点目標と表記)の
設定に関する認識が多様

例) ・ 毎年、同じ重点目標
・ 教育目標と同じ重点目標

→重点目標の具体化が大切

- ② 評価項目や評価指標の設定が困難

(例) ・ 評価項目が重点目標の説明のような内容
・ 評価指標がABCDなどの段階付けのみ など

→保育の展開がイメージできる評価項目・指標に

- ③ 学校評価の結果を次年度の教育課程や園運営に
反映しにくい

→改善策を次年度の教育課程等に生かすように



学校評価の
実効性



本研修DVD 1～4の全体構成について

研修の全体像を知り、各園の実情に応じた進め方ができるように内容を紹介する

- 研修1；各幼稚園における学校評価の実効性を高めるための課題の明確化と研修方法に関するガイド
- 研修2；重点的に取り組む目標の考え方と具体的な設定の方法
- 研修3；評価項目、評価指標の具体的な設定の方法
- 研修4；評価の取りまとめ（自己評価）の方法と改善策の検討

- ※ 自園の課題のところに重点を置いて視聴・協議をしてもOK
- ※ 各園の園内研修の時間設定の状況や教職員の人数や経験の違いなど、様々な実情に応じて考えながら進めるなど、次ページに示すように多様な活用方法を工夫してください。

本DVDを活用した研修の進め方について

- 視聴するだけでなく、折々に映像を止めて「考えてみよう」「書いてみよう」「話してみよう」などの「ワーク」の場面では、動画を止めて実際にある程度の時間を取ってやってみてから再スタートしてください。
- 園内研修を設定できる時間や職員構成等、園の実情を勘案して学びのスタイルを工夫する。
- 多様な活用方法を
 - ㊦園長・リーダー的な教員が先に学習し、教職員と一緒にワークをする際にはリードをする方法
 - ㊧教職員全員が一緒に視聴し、課題について学ぶ方法
 - ㊨昨年度の学校評価の方法や結果を振り返りながらワークの場面を活用し、教職員が気付いたことを発表・協議をする方法 など
- 自園の実情に即して評価方法を考えることを大切に
- ガイドブックの真似からスタートもOK

実効性のある学校評価の実施に向けて 研修ガイドDVD 2

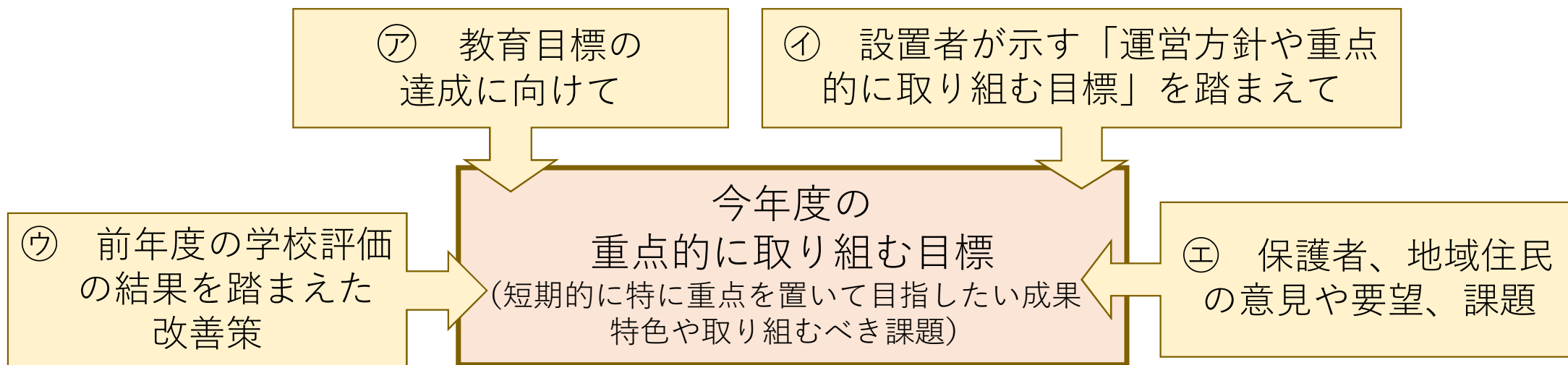
学校評価を実施する過程は、
教職員と目標を共有し、取組や成果を確認する場。
この場をコミュニケーションの場にしよう。



研修 2 のねらい

- 重点的に取り組む目標の考え方について学ぶ
（「重点的に取り組む目標」の意義・用語の理解）
- 自園のこれまでの学校評価における「重点的に取り組む目標」の設定を振り返り、具体的な設定方法を学ぶ

「重点的に取り組む目標」の設定の考え方



重点目標の設定について、幼稚園に伝えたいこと

- ① 当該年度に特に重点を置いて目指したい成果や取り組むべき課題を精選する
 - ・各園が設定している教育目標や教育活動の基本方針ではなく
 - ・園運営の全分野を網羅して総花的に設定するのではなく
 - ・地域社会の中で特に課題となっていることがあれば勘案 例) 新型コロナウイルス感染拡大
→ 「自ら健康を守ろうとする生活習慣を培う保育の展開」
- ② 具体的な保育がイメージできるように具体的な目標を設定する

各園が設定している教育目標、中期目標、重点的に取り組む目標について

法人・教育委員会等

設置者（組織全体）の経営視点からの目標

長期（経営）目標
法人の設置理念
全体を俯瞰した
目標

↓
中期（経営）目標
5～10年間に組織が
目指す目標

↓
短期（経営）目標
1, 2年で目指す
目標

各部署・役割に応じた目標の設定

幼稚園・認定こども園

法人・教育委員会の中の一組織としての役割、目標

教育施設としての目標

長期（経営）目標
・建学の理念 ・保育・教育目標

↓
中期（5～10年程度）目標
・保育・教育活動に関する目標
・幼児教育施設としての経営・運営に関する目標と方針

↓
短期（経営）目標
・1年間の重点目標や具体的方策
・保育・教育活動の充実に向けて
・組織運営の充実に向けて

年度間に重点的に取り組む目標のPDCA

A
教育課程・指導の改善
その他の運営の改善

C
年度間の学校評価
・教育活動充実に向けて
・組織運営充実に向けて

P
指導計画
運営計画

D
教育活動
運営実行

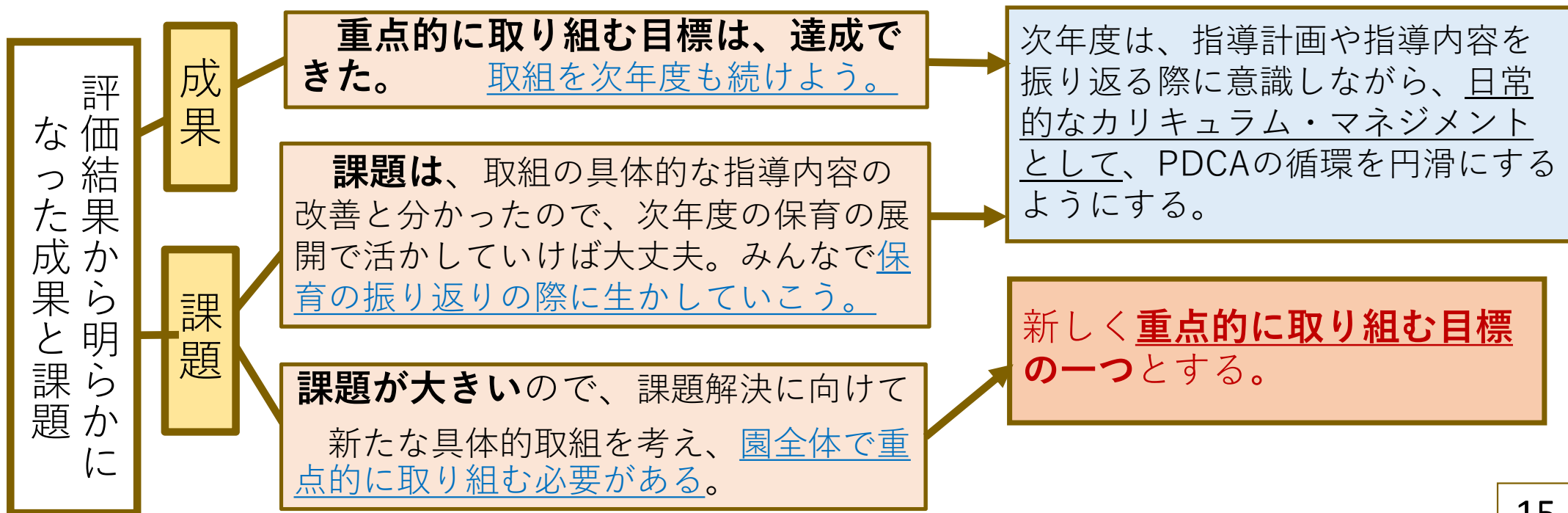
次年度の短期目標
重点的に取り組む目標

前年度の学校評価の結果を踏まえた重点的に取り組む目標の設定

ガイドブックP4

前年度の取組によって重点的に取り組む目標を達成したら、その取組は日常的な取組として継続することが大切。 (→**実効性につながる**)

次年度の「重点的に取り組む目標」は、新たな視点を考える。



自園の「重点的に取り組む目標」を振り返ってみよう

動画を止めて、①自園の過去3年間の「重点的に取り組む目標」を書き並べてみよう
②並べた目標を見て感じたことを話し合ってみよう。 **終わったら動画を再スタート**

◎令和3年度の「重点的に取り組む目標」

◎令和2年度の「重点的に取り組む目標」

◎令和元年度の「重点的に取り組む目標」

自園の「重点的に取り組む目標」を振り返ってみよう

過去3年間の「重点的に取り組む目標」を振り返ってみよう



◎令和3年度の「重点的に取り組む目標」

-
-
-
-

◎令和2年度の「重点的に取り組む目標」

-
-
-
-

◎令和元年度の「重点的に取り組む目標」

-
-
-
-
-
-

**ここでの学びが、
キーポイント!**

振り返りのチェックポイント

- ①毎年、同じような重点目標ですか？
- ②園の教育目標や指導方針のように、基本的な考え方を示すものですか？
- ③前年度の評価で「達成した」「概ね達成した」とされた目標は、重点として大切だからという理由で、少しだけ言葉を変えて同じような目標になっていませんか？
- ④前年度の学校評価で明らかになった課題に対応した目標になっていますか？
- ⑤具体的な方策(評価項目)がイメージできるような目標になっていますか？

具体的な保育のイメージがもてるような目標の設定を

ガイドブックP5

- ・ 重点的に取り組む目標を、**具体的な保育のイメージがもてるような目標**にすることが大切。
- ・ 目標が具体的だと、**どのような取組が必要かをイメージしやすく**、取組（評価項目）が決まれば、評価指標等が設定しやすくなる。

重点的に取り組む目標を設定する際の考え方

例) 教育目標「**考えて行動する子ども**」の達成に向けて

→ 感じたり考えたりしながら好奇心いっぱいの活動を生み出す指導を充実させたい。

「不思議さや面白さを感じて夢中になるような姿がたくさん見られるような保育」をすると子どもが考える機会が多くなるよね。

重点的に取り組む目標を「**自然と関わる遊びを豊かにする保育の展開**」にしよう！

具体的な保育のイメージがもてるような目標にすることが大切

大切!

自然と関わると、「不思議！」も多い。自然との関わりを充実させればいいかな？

園庭の自然が豊かなのに、教師は自然環境をあまり活用していないし、・・・。

区教委の重点目標を捉えつつ、自園の実情に合わせて「重点的に取り組む目標」を設定した例

中野区立かみさぎ幼稚園のW園長は、幼稚園の経営計画を作成し、その中に学校評価の項目を明示している。

○学校教育目標・・・心豊かでたくましく 健康な子どもに育てる

○目指す子ども像

・感じる心をもつ子ども ・考えながら行動する子ども ・豊かに表現する子ども

○区教委が指定している短期経営目標の柱

知、徳、体に関する項目

働き方改革に関する項目

地域連携に関する項目

保護者との連携・協力に関する項目

学校評価の「重点的に取り組む目標」に該当する項目

W園長の経営計画における今年度の重点(東京都中野区の様式の例)

今年度の重点

学校評価の

「重点的に取り組む目標」に該当する項目

(今年度末までにどのような状態にする)

A 重点目標

B 中期経営目標

(数年間でどのような状態にするか)

<p>1 【知（確かな学力）】 発達を踏まえた意図的・計画的な教育を推進する。</p>	<p>学びの多い遊びを展開する。 幼小中の学びの連続性を踏まえた指導を進める</p>	<p>PDCAサイクルで自らの指導を評価し、保育を改善する。 幼児の育ちを、幼稚園教育において育みたい資質・能力や10の姿の視点から捉える力を高める</p>
<p>2 【徳（豊かな人間性）】 自己肯定感や自己有用感を高め、多様性を認め合いながら共に生きる力を育む。</p>	<p>一人ひとりの幼児のよさや力を発揮できるようにする 直接的・具体的な体験を通して、豊かな感性を育む</p>	<p>学級の中で、自己発揮できる指導を進める 身近な自然と関わる活動を充実させる</p>
<p>3 【体（健康・体力）】 健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくりだす力を養う</p>	<p>自ら体を動かして遊ぶことを楽しむ幼児を育てる 健康で安全な生活を自らつくりだす力を育む</p>	<p>意欲的に体を動かして遊ぶ環境の構成を行う 健康に関する意識を高め、必要な習慣や態度を身に付ける指導を工夫する</p>
<p>4 【学校における働き方改革】 個々の教職員がマネジメントの意識をもって効率的に仕事を進める。</p>	<p>全教員が、週当たりの在園時間が50時間以下になるように効率的に仕事を進める</p>	<p>個々の教員が勤務時間の意識を高め、仕事の見通しをもって進める</p>
<p>5 【連携】 発達の流れを長期的な視点で捉えながら幼児期の教育を充実させる。</p>	<p>15年間で、読書を通して語彙力を増やし文章理解力を育てる。</p>	<p>発達段階に応じ、絵本に興味・関心をもち、親しむ態度を育成する。</p>
<p>6 【保護者・地域との連携】 保護者や地域との連携を深め、社会に開かれた教育過程の実現する。</p>	<p>保護者が幼児の成長を実感しながら園の教育の理解を深め、協力体制を進める。</p>	<p>園の方針や教育活動、感染症対策を保護者が理解し、教育活動を共に進める。</p>

考えてみよう

自園の教育目標(或いは課題) から、
「重点的に取り組む目標」を考えてみよう

- これまで学んだこと（スライドP17～20）を参考に、具体的な保育や運営がイメージできるように自園の「重点的に取り組む目標」を考え直してみよう。

◎

全方位的な点検評価について

ガイドブックP18～21

- 重点的に取り組む目標に関する評価では、分野に偏りが出る可能性
- 全方位的な視点も必要（点検項目・内容の例P19～21）
- 幼稚園の教育活動及びその他の学校運営は、12分野 → 評価項目の分野について配慮
- 3～5年に一度は、その分野を確かめる評価項目の設定を行うこと

「幼稚園における学校評価ガイドライン [平成23年改訂]」文部科学省より

「評価項目・指標等を検討する際の視点となる例」

- | | | |
|-------------|---------|----------------|
| • 教育課程・指導 | • 保健管理 | • 安全管理 |
| • 特別支援教育 | • 組織運営 | • 研修（資質向上の取組） |
| • 教育目標・学校評価 | • 情報提供 | • 保護者・地域住民との連携 |
| • 子育て支援 | • 預かり保育 | • 教育環境整備 |

全方位的な点検項目・内容の例

ガイドブックP19～21

適切に実施している項目に☑を記入 不十分な場合には備考欄に記入

項目	内 容	☑	備考	
教育課程・指導	教育目標	・幼稚園・幼児の実態を踏まえた教育目標を設定しているか		
		・教育目標の具現化に向け、実態を踏まえた中(長)期の目標を設定しているか		
		・教育目標についての共通理解が図られているか		
	指導について	・幼稚園教育要領を踏まえ教育課程や全体的な計画、年間指導計画を作成しているか		
		・長期・短期の指導計画は、幼児の実態に即して作成されているか		
		・学年・学級目標に迫る長期・短期のねらいは、適切に設定しているか		
		・幼稚園教育要領の内容を踏まえ、幼児の発達に即した指導をしているか		
		・チーム保育などにおける教師間の協力的な指導を行っているか		
		・日常的に振り返り、幼児理解に基づいて保育の改善に努めているか		
		・環境の構成を意識した指導の方法や過程を常に工夫しているか		
	教育週数・時間	・遊具・用具、教材・教具を適切に活用し、管理しているか		
		・教育週数を39週確保しているか		
	特別支援教育	・教育課程に係る教育時間は4時間を確保しているか		
		・園内研修の実施・各種研究会の参加により、特別支援教育への理解を深めているか		
		・個別の教育支援計画を作成し、全教職員が共通理解して個に応じた支援をしているか		
		・特別支援教育コーディネーターを指名など、園内体制を作っているか		
・保護者の思いや願いを受け止め、保護者や関係諸機関と連携しているか				
	・地域関係機関や行政、専門家と連絡・連携をして進めているか			

保健・安全管理 安全指導	<ul style="list-style-type: none"> ・学年・学級経営に生かされるような具体的な保健対策を講じているか 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・健康・安全な生活に必要な習慣や態度育成のため、家庭への啓発や連携を行っているか 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の安全確保のため、家庭・地域社会・関係機関等と連絡体制を確立しているか 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・学校安全計画、防災計画、保健計画を作成し、実施しているか（防災訓練、不審者対応、交通安全、生活安全） 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・保健日誌、園医執務記録、健康診断記録簿、薬品管理簿等法令に定められた表簿を作成しているか 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・学校保健安全法、学校給食法に基づく検査・点検が行われているか（換気、採光、照度、保温、水質、薬品保管等） 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理マニュアルが作成され、活用、見直しをしているか 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・園舎・園庭の施設・設備の安全点検を計画的に行っているか 		
経営・組織・提言 園務分掌・経営	<ul style="list-style-type: none"> ・能率的、合理的な運営組織、職務内容になっているか 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・職務内容が明確で、協働できる体制になっているか 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の配置（係や仕事の分担・割り当て）は適切か 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・各種会議や打ち合わせが適切かつ効率的に進められているか 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・打合せ回数、時間、内容は適切か 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議は、教育方針の伝達、共通理解の場になっているか 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・各種文書・各表簿（含む、学籍の記録、幼児指導要録等）は、適切に作成・処理・管理しているか 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児や保護者に関する個人情報 を適正に取り扱っている 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・出退勤時刻を管理し、効率よく職務を進める運営を工夫している 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員は、学校保健安全法、労働基準法等の各種法令の内容を理解し順守しているか 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・出勤簿、休暇簿、勤怠報告書が作成されているか 		
研究 研究	<ul style="list-style-type: none"> ・各種会計を適正かつ適切に処理しているか 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・研究主題は、教育目標の具現化につながるものであるか 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研修の回数、時間、内容、計画・運営は適切か 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・各種研究会、研修会、講習会への参加態勢の充実を図っているか 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・外部の各種研究・研修会、講習会での内容を園内に還元しているか 		

学校評価		・全教職員の共通理解の下、自己評価を実施しているか		
		・重点的目標、評価項目が設定されているか		
		・学校関係者評価は、自己評価の結果を評価しているか		
		・学校評価の結果を公表、及び設置者に報告しているか		
		・評価、資料（諸記録）を集積しているか		
情報提供		・幼児や保護者に関する個人情報をも適正に取り扱っているか		
		・公文書收受、発送、処理を適切に行っているか		
		・HPの更新、改善、活用をしているか		
		・各種表簿は、適切な時期、期間、方法で作成・処理しているか		
開かれた幼稚園づくり	校種間 交流	・児童等と触れ合う中で幼児が充実感を味わうことができるような配慮や援助・指導を行っているか		
		・交流の打合せや事後の評価を行い、互惠性のあるものとなるようにしているか		
		・参観や保育・授業等に参加するなどして、他校種教育を理解しようとしているか		
	家庭・地域 連携	・保護者、地域に保育公開をしているか		
		・指導計画に即して保護者を含む地域の人材活用をしているか		
		・地域協力者、関係機関と定期的に情報交換をしているか。		
		・地域の行事に積極的に参加し、地域の文化や生活に触れているか		
	子育て 支援	・未就園児の会の回数、内容は適切か		
		・地域の親子への園庭、施設の開放は適切に行われている		
		・保護者からの子育てに関する相談に、適切に対応しているか		
		・他の関係機関、専門家との連絡・連携体制をとっているか		
	預かり 保育	・家庭や地域の実情を踏まえた預かり保育の時間、回数になっているか		
		・預かり保育は適切な運営がされているか（人材、場所、内容など）		
		・教育課程の時間内の活動との関連性を考慮し、一体的に展開しているか		

実効性のある学校評価の実施に向けて
研修ガイドDVD 3

評価項目・評価指標は、
保育のヒントや目標達成の姿をイメージできるように設定して、質の向上につなげよう。

研修3のねらい

- 評価項目、評価指標（取組指標・成果指標）の考え方について学ぶ。
- 重点目標を達成するための取組状況と達成状況を評価する指標の設定方法と評価の方法を学ぶ。

目標や評価項目・指標を設定する際の留意点

ガイドブックP10

重点的に
取り組む
目標

園が伸ばそうとする特色や解決を目指す課題に応じて精選した目標
○○○○○○○○○○

教育活動その他の運営について
重点的に取り組む事柄

評価項目
(具体的取組)

12の分野（「幼稚園における学校評価
ガイドライン」P19～22）の中から
項目を選び具体的な取組・方策の視点を示す

～を育成、～を大切にする
ではなく

教職員が行う具体的な内容

取組指標
・基準

どの程度取り組むか；数値あるいは段階的に、例えば、
○○を…、△△を…、××を…、☆☆を…
学期1回、月1種、毎週、○以上など

教職員が行う具体的な取組を、
回数（頻度）や行動の質的レベル
を段階的（4段階程度）に示す

成果指標
・基準

取り組んだ結果、成果として期待する幼児や教職員の姿を具体的に示す
(幼児がどのように変容したか、教職員がどのように変容したか)

幼児や教職員の姿で

重点的に取り組む目標の達成を目指す 具体的な取組（評価項目）の設定

ガイドブックP5

重点的に取り組む目標「自然と関わる遊びを豊かにする保育の展開」

→ 目標の実現のためにどのような取組をするか = **評価項目の設定**

園の実態に即した取組（評価項目）を考える

自然環境を活用できない教職員もいるので、「自然と関わる遊びを豊かにする」ために自然と関わる遊びを指導計画の中に位置付けることと、自然と関わる遊び（教材）の研修を充実したらどうだろうか

㊦ 振り返りの充実による指導計画の改善..... “教育課程・指導“の分野で考えた評価項目

㊧ 自然と関わる遊びや活動に関する園内研修の実施 “研修（資質向上の取組）”の分野から考えた評価項目

→この2つの取組を、評価項目として設定しよう。

評価項目「㊦振り返りの充実による指導計画の改善」を実現する道筋は多様

ガイドブックP31

評価項目「指導計画の改善」の達成までの道筋は、一律ではない。
教員の力量や関係によって異なるので、各園の実情に即した道筋を考える。

大切!

(案1)③→⑥→④→⑦の道筋もあれば、**(案2)**⑧→②→②→⑦の道筋も考えられる。

- ① 幼児が自然と関わっている姿を捉え、その遊び（自然との関わり）が充実するような遊具・用具を、使いやすく環境の構成をする（幼児の状況を捉えた環境の構成の視点）
- ② 自然と関わる遊び等を保育に積極的に取り入れ、振り返りで気付いたことを、明日の保育に生かす（日々の指導・週日案の改善）
- ③ 保育の記録に、幼児が自然と触れ合っている姿について記述し、幼児の興味・関心を捉える（記録の仕方）。
- ④ 振り返りの記録から、自らの指導と幼児の学びとの関わりを捉える。
- ⑤ 自然環境を見直して保育に取り入れたこと（研究保育を含む）を振り返り、教師間で共有し、指導に反映する。
- ⑥ 振り返りの記録を定期的にまとめて、自然の関わりに関する幼児の育ちを捉える。
- ⑦ 季節ごとの園庭の自然環境を見直し、指導計画の改善に生かす
- ⑧ 自然に関わる遊びを充実させる援助ができるように、自然に関する知識を深める。
（教師の基礎的な知識・技能の視点）

「振り返りの充実による指導計画の改善」への多様な道筋の例

ガイドブックP32

記録から幼児の実態を捉えて、指導計画の改善につなげようとする道筋の例

案1 (③→⑥→④→⑦の道筋)

基準	取組指標
4	季節ごとの園庭の自然環境を見直し、指導計画の改善に生かす
3	振り返りの記録から、自らの指導と幼児の学びとの関わりを捉える
2	振り返りの記録を定期的にまとめて、自然との関わりに関する幼児の育ちを捉える
1	幼児が自然と触れ合っている姿について記録し、幼児の興味・関心を捉える

教師が自分で学び、実践しながら指導計画の改善につなげようとする道筋の例

案2 (⑧→②→②→⑦の道筋)

基準	取組指標
4	季節ごとの園庭の自然環境を見直し、指導計画の改善に生かす
3	振り返りで気付いたことを、明日の保育に生かす
2	自然と関わる遊び等を保育に積極的に取り入れる
1	自然に関わる遊びを充実させる援助ができるように、自然に関する知識を深める

評価指標の設定も具体的な姿がイメージできるように

ガイドブックP6

評価指標には、**取組指標**と**成果指標**がある。

取組指標は、評価項目の達成に向けた取組についての的確に把握するための視点となるもの。「どのような取組」をしていれば「十分取り組んでいる」と判断するか等、教員が共通理解できるよう具体的な取組がイメージできる姿で示す必要がある。

成果指標は、取組の成果として期待する幼児（或いは教師、保護者等）の姿を具体的に示すもの。

評価指標

取組指標

どのようなことに、どの程度取り組むか
数値・段階的に（例. 学期1回、月1種以上など）

成果指標

幼児がどのように変容したか
教職員がどのように変容したか

評価指標設定の意味

取組指標

- 4 振り返りの記録を定期的にまとめて指導計画を改善する
- 3 振り返りの記録から、自らの指導と幼児の学びとの関わりを捉える
- 2 幼児が自然と触れ合っている姿を記録し幼児の興味・関心を捉える
- 1 自然と関わる遊び等を保育に取り入れる

成果指標

- 4 幼児が自然の変化に興味を示したり、自分たちの遊びに取り入れるようになった
- 3 幼児が、調べたり集めたり試行錯誤したりしながら、自然環境に関わるようになった
- 2 幼児が、自然の事象や変化に気付き、表現したり伝えたりするようになった
- 1 幼児が、自然の事象や自然の様子を見るようになった

Q.7 なぜ、評価指標を示さないといけないの？
(ガイドブックP6)

A. どのような取組にするか具体的な姿を示すことで、保育のヒントになり、可視化につながるからです。

Q.8 「評価指標・基準」で、なんですか？ (ガイドブックP7)

A. 「評価指標」は、評価項目の達成状況把握の視点で、左図は、取組指標も成果指標も4段階になっています。
「自然と関わる遊び等を保育に取り入れる」という取組は[1]で、もう少し頑張っしてほしいという低いレベルです。同様に、「幼児が自然と触れ合っている姿を記録し、幼児の興味・関心を捉える」は、評価としては普通の段階で[2]となります。このように、取組等のレベルを判断するための具体的な姿を示すのが「基準」です。[3]は少し頑張った、[4]は「ここまで頑張ってくれたら嬉しい」という評価になります。

取組指標は、
成果指標は、

園長からのメッセージ

重点的に取り組む目標；自然と関わる遊びを豊かにする保育の展開

評価項目；振り返りの充実による指導計画の改善 【教育課程・指導】の分野

取組指標

- 4 振り返りの記録を定期的にまとめて指導計画を改善する
- 3 振り返りの記録から、自らの指導と幼児の学びとの関わりを捉える
- 2 幼児が自然と触れ合っている姿を記録し幼児の興味・関心を捉える
- 1 自然と関わる遊び等を保育に取り入れる

成果指標

- 4 幼児が自然の変化に興味を示したり、自分たちの遊びに取り入れるようになった
- 3 幼児が、調べたり集めたり試行錯誤したりしながら、自然環境に関わるようになった
- 2 幼児が、自然の事象や変化に気付き、表現したり伝えたりするようになった
- 1 幼児が、自然の事象や自然の様子を見るようになった

※評価指標は、【4】に示す取組をすると【4】の成果につながるという意味ではありません。
【4】の取組まで頑張ったけれど、成果（幼児の姿）は【2】の段階だったということも考えられます。
この場合、どう考えればよいでしょうか？

評価指標・基準の設定の例

重点的に取り組む目標；自然と関わる遊びを豊かにする保育の展開

評価項目；自然に関わる遊びや活動に関する園内研修の実施【研修：資質向上の取組】の分野

取組指標	成果指標
4 自然と関わる遊びや活動に関する園内研修を 月1回以上 行う	4 教師はもっと面白い遊びや活動、素材等を見つけようとするようになった
3 同上 月1回 程度	3 研修で提案された遊びや素材等を、実際に試してみる教師が出てきた
2 同上 2か月に1回程度	2 教師が新しい遊びや素材等を探す姿が見られるようになった
1 同上 学期に1回程度	1 教師が提示しているのは、自分の扱い慣れている遊びや素材等だけである

※基準は各幼稚園独自に設定することが望ましいが、その基準が示す具体的な姿を教職員が共通理解することが大切！ → 教職員のコミュニケーションの場に

重点的に取り組む目標	園が伸ばそうとする特色や解決を目指す課題に応じて精選した目標 ○○○○○○○○○○ <div data-bbox="1227 395 2123 555" style="border: 1px solid black; background-color: #ffffcc; padding: 5px; display: inline-block;"> 教育活動その他の運営について重点的に取り組む事柄 </div>
評価項目 (具体的取組)	12の分野（「幼稚園における学校評価ガイドライン」P19～22）の中から項目を選び具体的な取組・方策の視点を示す <div data-bbox="1473 582 2197 730" style="border: 1px solid black; background-color: #ffcc00; padding: 5px; display: inline-block;"> ～を育成、～を大切にするではなく </div> <div data-bbox="1512 742 2228 821" style="border: 1px solid black; background-color: #ffffcc; padding: 5px; display: inline-block;"> 教職員が行う具体的な内容 </div>
取組指標・基準	どの程度取り組むか；数値あるいは段階的に、例えば、○○を…、△△を…、××を…、☆☆を… 学期1回、月1種、毎週、○以上など <div data-bbox="1377 917 2197 1129" style="border: 1px solid black; background-color: #ffffcc; padding: 5px; display: inline-block;"> 教職員が行う具体的な取組を、回数（頻度）や行動の質的レベルを段階的（4段階程度）に示す </div>
成果指標・基準	取り組んだ結果、成果として期待する幼児や教職員の姿を具体的に示す（幼児がどのように変容したか、教職員がどのように変容したか） <div data-bbox="1467 1284 2116 1369" style="border: 1px solid black; background-color: #ffffcc; padding: 5px; display: inline-block;"> 幼児や教職員の姿で </div>

多面的な取組や姿で評価指標を設定する例

ガイドブックP11

重点的に取り組む目標； 自然と関わる遊びの充実

評価項目； 自然と関わる遊びや活動に関する園内研修の実施【研修：資質向上の取組】

取組指標

- 1 園や地域の自然の変化について園内研修で報告したり遊びに活用したりする
- 1 自然に関わる遊びの研究保育をする
- 1 幼児が自然と関わって遊んでいる姿を記録し、幼児の興味・関心を捉える
- 1 園内研修を年間4回以上行う

成果指標

- 1 教師はもっと面白い遊びや活動について伝え合う姿が多く見られるようになった
- 1 教師は、保育室の環境に自然物を多く取り入れるようになった
- 1 教師は、自然に関する園外研修に参加するようになった。
- 1 教師は、幼児と一緒に自然に関わって遊ぶようになった

※ 多面的な指標設定の場合、評価は十分実施できたと思われる項目を【1】、普通程度を【0.5】、不十分を【0】として、各項目の評価値を合計することになる。また、このような多面的な取組や姿で評価指標を設定する場合には、**全ての評価項目について指標の数を同じにする**必要があります。

→なぜでしょう？ 考えてみてください。（P11、Q15参照）

W園長の経営計画における今年度の重点(東京都中野区の様式 再掲)

今年度の重点			幼稚園における学校評価の 「重点的に取り組む目標」に該当する項目
A 重点目標	B 中期経営目標 (数年間でどのような状態にするか)	幼稚園における学校評価の 「重点的に取り組む目標」に該当する項目 (今年度末までにどのような状態にする)	
1 【知(確かな学力)】 発達を踏まえた意図的・計画的な教育を推進する。	学びの多い遊びを展開する。 幼小中の学びの連続性を踏まえた指導を進める	PDCAサイクルで自らの指導を評価し、保育を改善する。	幼児の育ちを、幼稚園教育において育みたい資質・能力や10の姿の視点から捉える力を高める
2 【徳(豊かな人間性)】 自己肯定感や自己有用感を高め、多様性を認め合いながら共に生きる力を育む。	一人ひとりの幼児のよさや力を発揮できるようにする 直接的・具体的な体験を通して、豊かな感性を育む	学級の中で、自己発揮できる指導を進める	身近な自然と関わる活動を充実させる
3 【体(健康・体力)】 健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくりだす力を養う	自ら体を動かして遊ぶことを楽しむ幼児を育てる 健康で安全な生活を自らつくりだす力を育む	意欲的に体を動かして遊ぶ環境の構成を行う	健康に関する意識を高め、必要な習慣や態度を身に付ける指導を工夫する
4 【学校における働き方改革】 個々の教職員がマネジメントの意識をもって効率的に仕事を進める。	全教員が、週当たりの在園時間が50時間以下になるように効率的に仕事を進める	個々の教員が勤務時間の意識を高め、仕事の見直しをもって進める	
5 【保幼小中連携】 発達の流れを長期的な視点で捉えながら幼児期の教育を充実させる。	15年間で、読書を通して語彙力を増やし文章理解力を育てる。	発達段階に応じ、絵本に興味・関心をもち、親しむ態度を育成する。	
6 【保護者・地域との連携】 保護者や地域との連携を深め、社会に開かれた教育過程の実現する。	保護者が幼児の成長を実感しながら園の教育の理解を深め、協力体制を進める。	園の方針や教育活動、感染症対策を保護者が理解し、教育活動を共に進める。	

W園長の重点目標・評価項目・指標の例

重点目標を達成するための今年度の取組と評価基準・評価結果(一部抜粋)

A 重点	学校評価における重点目標	具体的な方策 評価項目	具体的な取組		成果	
			評語	取組に関する指標 (可能な限り数値で)	評語	成果指標 (可能な限り数値で)
1 知 (確かな学力)	PDCAサイクルで自らの指導を評価し、保育を改善する。	ねらいに即して記述した記録を振り返り、一人ひとりの発達に必要な経験が得られるようにする。	A	発達に必要な経験ができる保育を創造する	A	PDCAサイクルを週案や実践に生かした教員が90%以上
			B	ねらいに即した評価を行い保育を改善する	B	同上75%以上
			C	日々の反省・評価をして翌日の計画をたてる	C	同上50%以上
			D	日々の幼児の姿の記録をとる	D	同上50%以下
	幼児の育ちを、幼稚園教育において育みたい資質・能力や10の姿の視点から捉える力を高める	保育の振り返りを資質・能力や10の姿の視点から分析する	A	10の姿の視点を意識して保育を考える	A	学びの連続性を意識し保育を進めるようになった
			B	分析した内容を教師間で協議する	B	10の姿の視点で捉えられるようになった
			C	10の姿の視点で分析する	C	学期の振り返りで10の姿の視点を活用した
			D	教育要領と実践を関連させて振り返る	D	教育要領で確かめながら振り返るようになった
3 体 (健康・体力)	意欲的に体を動かして遊ぶ環境の構成を行う	幼児の興味・関心に応じた遊びを取り入れ、多様な動きができるようにする	A	運動遊びについて協議し指導計画を改善する	A	ほとんどの幼児が様々な運動遊びを楽しむようになった
			B	園庭の環境や遊具の配置を協議し改善する	B	ほとんどの幼児が繰り返し楽しむようになった
			C	発達に応じた運動遊びを計画的に取り入れる	C	学級でする運動遊びを楽しむようになった
			D	幼児の興味関心や実態を捉える	D	教師の提示した運動遊びには参加する
	健康に関する意識を高め、必要な習慣や態度を身に付ける指導を工夫する	感染症予防に必要な習慣が身に付く指導や環境を工夫する	A	実態を把握し保護者と連携して指導する	A	学級全体で感染症の理解が深まり生活している
			B	感染予防に必要な環境や指導を工夫する	B	個々の幼児の習慣が身に付いた
			C	感染対策について学期に一度共有する	C	感染症予防に必要なことを理解した
			D	園のマニュアルを学期に一度確認する	D	教師に促されてうがいや手洗いをする

実効性のある学校評価の実施に向けて
研修ガイドDVD 4

自己評価のとりまとめは、
目標の達成状況と教職員の取組を関連付けて捉え
改善のヒントにつなげよう。

研修 4 のねらい

- 各教職員が評価した結果の取りまとめ（園全体の自己評価）と改善策の検討の方法について学ぶ
- 自己評価の結果の取りまとめと、次年度の教育課程や園運営への反映について、自園を振り返り学ぶ
- 報告書の作成、公表、学校関係者評価の考え方について学ぶ

4 これくらい取り組んでくれたら園長は最高！
 3 少し頑張っこれくらいできるかも
 2 これくらい取り組むのは普通程度
 1 もう少し頑張っほしい

というように、どの程度取り組んだか評価の基準を示している。これによって評価の基準が共通理解され、妥当性・信頼性を高めることにつながる。

取組指標には、評価項目に示している具体的な方策（保育の展開）のヒントになるような内容や、教職員に対して、「こんな保育をしてほしい」「こうやってみたらよいかもしれない」という園長からのメッセージとなるように工夫している。

重点的に取り組んだ結果、どのような成果があったか、幼児・教職員がどのように変容したかを捉えて評価する指標を示す。「幼児がこういう姿を見せるようになったら嬉しいね」と共通理解した指標や、「(教職員が)こんな力を付けたら嬉しい」というメッセージになるように考え設定している。

取組と成果に関する評価結果（カッコ内は平均値）と教職員の意見の内容を総合して4段階で評価している
 A とても良い
 B まあまあ良い
 C 普通
 D 良くない（要検討）

数値では表しきれない思いを、自らの取組と関連させて記述したり、改善への提案を記述したりした内容について、協議した結果をまとめている。

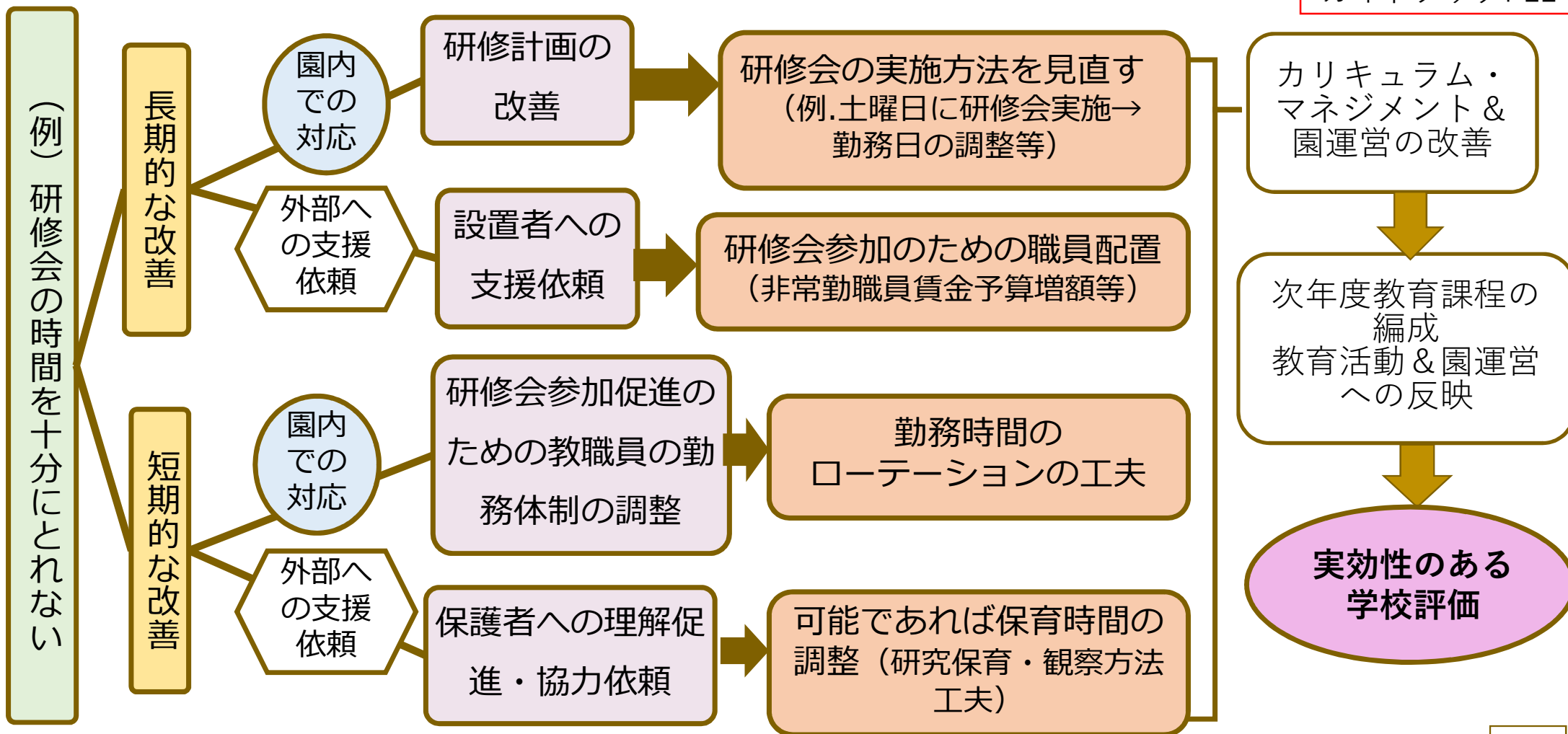
年度末に教職員が自分の取組を振り返り基準に基づいて評価した結果を集計し、全員の評価の平均値を記入し、その妥当性について協議する。

目標	評価項目	基準	取組(努力)指標	取組結果	基準	成果指標	成果	総括評価	コメント
教育活動の記録を生かしたまとめや保育の見直し改善と環境構成	【教育活動・指導】 幼児期の発達や学びを踏まえた教材の工夫して環境を構成する。	4	子どもの主体性とねらいとのバランスを考えて、遊具や用具を揃え、環境の構成を工夫する	2.6	4	子どもは、教師が研究して準備したモノに興味や関心をもち、活用しながらさらに遊びが発展するようになった。	2.4	B (2.5)	コメント
		3	子どもの発達にあった遊具や用具等、保育室の環境を考え、子どもたちが遊びやすい用具の置き方の工夫する。		3	子どもたちの遊びのイメージがわきやすくなった。			
		2	子どもの発達を理解し、一人一人に合った遊具や用具を準備をする。		2	子どもは、教師が提示したり環境として置いたモノに興味を示し触れたり使ったりするようになった。			
			1	一人一人に合った遊具や用具を準備をする。		1	子どもは、教師が提示したり環境として置いたモノを見ている。		
	【教育活動・指導】 飼育物や栽培に興味・関心をもち、発見や気づきを通し、命の大切さにつなげた援助をする。	4	栽培物の花や実を造形活動に生かしたり食べたりして、命の大切さにつなげた援助をする。	3.5	4	育てている花や野菜の成長に気づき喜んだり、友達に伝えたりするなど、竿倍物に関心をもち、大切にしたい気持ちをもつようになった。	3.3	A (3.4)	
		3	子どもたちの気づきや発見、活動に応じて、栽培物の生長に気づくような表示や掲示物を工夫したり環境構成をする。		3	自分たちの育てている花だけでなく、園内の花や野菜の様子にも興味をもつようになった。			
		2	季節に応じて種まき、苗植えをして、子どもたちと一緒に、生長を楽しむ。		2	当番を楽しみにして、成長や変化に気づくようになった。			
			1	指導計画に基づいて、花や野菜などを育てる活動を保育に取り入れる。		1	当番はするが、興味関心はあまりない。		
	【教育活動・指導】 日々の振り返りの中で、子どもの姿から発達を捉えたり保育のねらいとの関連から自らの指導を評価し、保育を改善する	4	日々のねらいに即した記録や週日案の改善から、一人一人の発達に必要な経験が得られる保育を創造する。	2.8	4	記録を基に振り返り、PDCRAサイクルを保育実践に生かした教職員が 75%以上	3.0	B (2.9)	
		3	子どもの発達や姿から保育を振り返って記録し、ねらいに即した評価を行い、週日案の改善を行う。		3	同 上 65%以上			
		2	日々の振り返り、反省・評価を重ねながら、発達の時期や年齢を意識した保育を実践する。		2	同 上 50%以上			
		1	日々の振り返りをし、反省・評価を基に、次の日の計画を立てる。		1	同 上 50%			

ガイドブックP16、17

自己評価の結果から改善策検討の流れ

ガイドブックP22



各分野における評価指標の参考例

各分野について、多様な評価項目に関する指標を例示しているが、**各園の実情に近い指標例**を選んだり、言葉や表現を変えたりするなどして、**実情に合わせた自己評価が実践されるよう**工夫する。

評価指標	取組指標の例	成果指標の例
①教育課程・指導		
評価項目	幼稚園教育要領第2章に示すねらい・内容を意識した保育の実現	
	<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園教育要領第2章に示すねらい・内容が、自園の教育課程・指導計画にどのように位置付いているかを確認する 自園の指導計画について、幼稚園教育要領第2章に示されたねらい及び内容、「遊びを通しての総合的な指導」の観点から見直す 幼児が展開する遊びの見通しをもつと同時に、自園の指導計画を考え合わせながら翌日の指導計画を立案する 5領域の視点から、自園の指導計画を見直す 自分が捉えた幼児の発達の様子を園の指導計画と照らし合わせてみる 翌日の保育のねらい及び内容を指導案に記載し、振り返りを記録する 保育の振り返りで、幼児の学びを捉えるとともに、自分の指導と関連付けて評価する 評価の結果から、指導案に記載したねらい及び内容の適切さについて見直す 指導の見直しから、指導計画の改善につなげる 	<ul style="list-style-type: none"> 幼児は、教師が遊びを提示するのを待っていることが多い 幼児が楽しそうに遊ぶ姿が増えてきた 幼児が新しい遊びを考え出したり、自分から環境に働き掛けたりするようになった 楽しんでいた遊びを繰り返したり発展したりするようになった 幼児は、多様な遊びを展開するようになった 自分だけでなく、友達と一緒に遊ぶことを楽しむようになった いろいろな遊びに興味をもったりチャレンジしたりするようになった 興味をもったことにじっくり取り組むようになった 友達が面白がっていることに興味をもって自分もやってみようとするようになった 友達と共通の目的を達成するために考えたり試したりする姿が見られるようになった <p>※全ての評価項目について言えることですが、成果は多様な視点が考えられます。各園が重点的に取り組む目標に即して、指標を工夫されるとよいと思います。</p>

私立幼稚園が実施している 幼児教育の質向上を支援するECEQ

リーフレット「ECEQ PASSPORT」公益財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 より

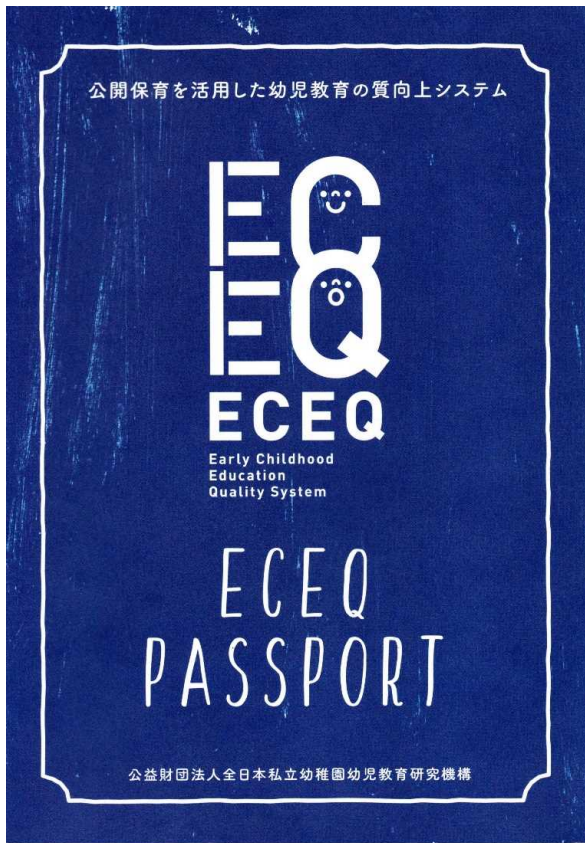
ECEQとは、

幼稚園等が公開保育を実施し外部の視点を導入することによって自園の教育実践の質向上につなげていくために、公開保育を核として園と保育者一人一人を支援するプログラムで、全日本私立幼稚園幼児教育研究機構が開発した。

- 公開保育をした園が「やってよかった」と思えるように、コーディネーターが進行を支援することが特徴。その進行を支援するのが、同機構が実施している養成講座を修了し資格認定を受けた「ECEQコーディネーター」である。
- コーディネーターは、公開保育全体をファシリテーションする。
- ECEQは、園との対話を通して、5段階で進める。
- 園とコーディネーターは、「指導」「助言」ではなく「ともに学ぶ」関係性で進行し、学び合い・育ち合う参加者主体の公開保育である。

ECEQの流れ (前掲リーフレットより)

リーフレット表紙



教育活動について

「**問い**」を重点目標に関連付けて**設定し**、公開保育後に「**問い**」を基に**協議する**。
外部者・参加者の意見を参考に、気づきの記録を整理し、公開後に全員で共通理解する。

協議の中での**気づき**や**改善策**を保育に反映し、成果や課題等を日常の保育後や**年度末**に行っている**教育活動の振り返り**の中で、**自己評価の評価項目**として意識して**議題**にする。

- ・「重点的な目標」の取組状況や達成状況について、意識的に評価内容を取り上げ、成果や課題を整理する。
- ・協議の結果を、全教職員で共通理解する。

自己評価の総括評価

- ・成果と課題の明確化
- ・改善策の検討

園運営の評価項目について

- ・「幼稚園における学校評価ガイドライン」に例示されている”**教育課程・指導**“以外の園運営に関する分野のうち、3分野程度を選定し、重点的に取り組む目標への達成に向けた取組状況や達成状況について評価項目とし、全員で共通理解する。
- ・日常の実践を折々に振り返り、目標の達成状況を捉え、継続すること、改善したいこと等を検討し、記録する。

年度末の自己評価のまとめ

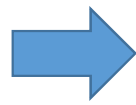
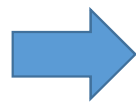
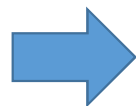
- ・園運営の全分野について、数年の間に一度は評価項目として取り上げ、評価することが望まれる。
- ・評価の指標が明示されると妥当性、信頼性が高まる

学校関係者評価に関する課題と対応

学校関係者評価の目的は、保護者や地域住民等の学校関係者等が自己評価の結果について評価すること等を通じて、自己評価の妥当性・透明性を高め、幼稚園・家庭・地域が学校の現状と課題について共通理解を深めて相互の連携を促し、園運営の改善への協力を促進すること。

課題

- 園の様子を伝えたり保育を参観していただいたりして、自己評価と同じような項目で評価をしていただいている園が多い。
- 自己評価の結果をどのように伝えればよいか分からないと感じている園がある。
- 学校関係者評価の結果をいただくことで安心し、次年度の教育活動や園運営に反映させることを意識していない園が多い。



今後の対応策

- **学校関係者評価の目的を意識付け**、園は、自己評価の方法や結果、改善策等について報告し、評価をしていただくこと。
- 当該年度の重点目標、評価項目・指標に基づいて**自己評価した結果の概略**を示す報告書を作成し、**結果や改善策について報告・説明**する。(スライド P 49、参考資料の報告例 1 を参照)
- 学校関係者評価の中での評価や助言を教職員に伝え、自己評価や改善策を確認・修正し、次年度の**改善へのヒントや教職員の意欲**につなげる。(スライド P 50、参考資料の学校評価委員会の意見例の**赤い字の部分**などを参照)

自己評価結果の学校関係者評価委員会への報告（例1）

一部抜粋

○重点目標；

表現する楽しさや喜びが実現できる教材開発と豊かな感性をはぐくむための美しい環境づくり

評価項目	取組結果	成果結果	評価結果についての教員等の主な意見	次年度の改善策
保育室内外の環境整備・整理・整頓と 美しさを意識した 掲示板の再構成	月1～2回程度 評価結果 3.75	掲示を遊びの中に活かしたり、自ら環境を整えたりする幼児はクラスの半数程度 評価結果 2.75	・幼児の作品掲示は月1回から2回行い、 <u>取組として</u> は概ね目標を達成した。 ・掲示板に飾った各自の紙人形を人形ごっこに活かしたり、貼ってある人形が歌っている歌詞を見て歌ったりする姿は見られた。 しかし、自分たちの保育室を片付けたり整えようとする幼児は60%程度で、取組に工夫が必要と考える。 興味に個人差があるので、具体的な援助があると、もう少し成果も高くなったと考える。	幼児が壁面を活用しやすいように工夫していく。 保育室を整えることは、幼児主体にするのは難しく、保育者がモデル提示を積極的にする必要はある。
表現に関する教材開発や積極的な材料提示	月に1～2種程度 評価結果 3.25	表現を楽しみ豊かに表現するようになった幼児が70%以上 評価結果 3.25	・材料の提示などは子供の遊びの様子に合わせて積極的に行っていた。動き方が分からなかったり、評価を気にしたりする幼児もわずかにいるが、身近なものを題材にした動きのある表現遊びは楽しみにする幼児が多くなっており、成果としても概ね達成していると考え。 ・表現の題材(課題)にもよるが、ほとんどの幼児が喜んで取り組むようになってきている。	・遊びの中に活かせる教材開発を日常的に繰り返し、表現を楽しめるようにしていく。 ・一人一人の自分らしさを認め、活かしていく。

(例1)に関する学校関係者評価委員会の意見

重点目標	評価項目	学校関係者評価	
		自己評価結果に対する意見	次年度の改善策に対する意見
表現する楽しさや喜びが実現できる教材開発と豊かな感性をはぐくむための美しい環境づくり	保育室内外の環境整備・整理・整頓や、美しさを意識した掲示板の再構成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 取組は、概ね目標を達成しているにもかかわらず、掲示板の活用状況が年長は低く平均が60%程度で援助が必要であると評価している。<u>評価が厳しすぎると思う。</u> ・ 年長児は、作ったものを壊したくないという思いが強くなり、<u>せっかく飾った掲示板をきれいなままにとっておきたいということも考えられるのではないか。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活用しやすいように工夫することは大切だが、年少児、年長児の発達によって違いがある。<u>取組は十分であり、このままでよいのではないか。</u> ・ 成果の評価をする際には、活用の回数だけでなく上記の理由も踏まえ、<u>評価の指標を工夫するとよい。</u>
	表現に関する教材開発や積極的な材料提示	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教材の開発や材料提示は大変だと思うが月に1回から2回できるものか？それだけ取り組めたことは、よかった。 ・ 新しい教材開発・提示など、<u>試みを積極的にすることは大切である。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教材開発を進めることは重要であり、外部人材を積極的に活用してほしい。 ・ 高校の美術の教員も優れているし、NPOなどを活用するのもよいと思う。 ・ <u>地域も保護者も協力するので活用してほしい。</u>

ご清聴、
ありがとうございました。

学校評価を実施する過程を、
教職員と目標を共有し、取組や成果を
確認する場として、コミュニケーション
の場にすることを期待しています。

評価項目・評価指標を、保育のヒン
トや目標達成の姿をイメージできるよ
うに設定して、質の向上につながるよ
うにすることを期待しています。